

全国 検数労連

721号

〒144-0052 東京都大田区精田 5-10-2 日港

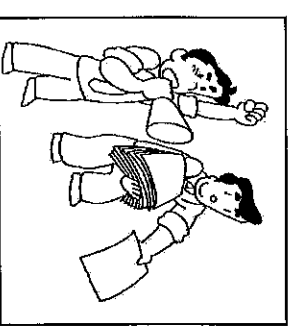
福会館 5階

Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622

メール roren@kensu.jp

ホームページ http://www.kensu.jp/

全国検数労働組合連合
書記局



12月5日(月) 09:00~09:30 第6回 検数労連22冬季一時金交渉。

すべての地域から批准・一任を受け22冬季一時金闘争妥結を表明。

支給日12月9日(金)を確認。

【各地域からの出された意見まとめ】

【全日検関係】(評価点)

- ① 乗率0.022ヶ月のプラス回答。
- ② 総支給額が夏比・昨冬比プラス回答。
- ③ 安定した一時金の確保。
- ④ 乗率重視の姿勢での闘争構築。
- ⑤ 特別評価原資の他項目への移行。
- ⑥ 格差是正に向けた追求。

(不満点)

- ① 要求との関係では低額回答。
- ② 修正回答が引き出せなかったこと。
- ③ 一律(職務経験)部分の減額。
- ④ アルファ回答による地域間格差。
- ⑤ 家族手当・地域年齢手当が算式に入っていない。
- ⑥ 一律での勤続年齢による格差回答。
- ⑦ 収支に貢献している契約雇員・準職員の低額回答。
- ⑧ 準職員間における勤続年数による格差回答。

【日検協会関係】(評価点)

- ① 乗率2.10ヶ月回答。(過去最高の乗率回答)
- ② 総額で昨冬比、夏比較プラス回答。
- ③ 目に見える形で結果が出た回答。
- ④ 都市加算の満額回答。
- ⑤ 安定した一時金の確保。
- ⑥ 乗率重視の姿勢での闘争構築。
- ⑦ フォトン接種に伴う特別休暇の追求。
- ⑧ 意見集約期間の延長。

(不満点)

- ① 昨冬比一律部分の減額。
- ② 要求との関係では一時金総額が低額。
- ③ 諸物価高騰対策には不十分な回答。
- ④ 業績加算の整合性や4ラソクの判断基準。
- ⑤ 業績加算による支部間格差回答。

【第⑨回一時金交渉】
前回の交渉以降、各地域から22冬季一時金闘争全般における意見集約を行った結果、すべての地域から批准または一任を受け、12月5日に開催した第⑨回検数労連22冬季一時金交渉で妥結の態度表明を行いました。

【態度表明(要旨)】
冬季一時金要求全般については、現到達をもって妥結する。今冬季一時金闘争は諸物価高騰により生活を守ることができないとする組合員の悲痛な声や職場では週休休日・休暇すら取得できないほどの業務対応を余儀なくされるなど過酷な労働環境のちで、全組合員が生活と職場を守るための『生活防衛闘争』と位置付けて交渉に臨んできました。

一時金回答については、西協会

ともにアルファ部分を除く小計部分の全国平均において昨冬比プラス回答とし、アルファ部分を加味した平均総額においてもプラス回答となりました。要求額式、要求額との関係では不満を残しましたが、諸物価高騰による生活防衛対策や全国的な職場の繁忙状況を踏まえるならば、一定理解できる一時金総額となりました。

具体的な回答内容について、全日検は家族手当、地域年齢手当、都市加算が回答算式に入っていないことと北海道に対する格差解消やフォトン接種に伴う特別休暇について理解が得られず不満を残す結果となりました。日検協会は一律が回答算式に入っていないことが不満となり、また、フォトン接種に伴う特別休暇については協議継続となり別休暇については協議継続となりませんでした。西協会のアルファ回答や国民的課題に対する態度表明について

では理解が得られなく残念な結果となりました。一方、昨冬比乗率の上積み、日検の都市調整加算の満額回答については、一定評価できる部分となりました。

次の問題点を提起する。

西協会の地域格差対応は職場を支援している従業員のモチベーションに影響を与えるとともに、人材流出の要因にもなっています。依然、長期化しているコロナ禍での主要取扱貨物の荷動きや検査業務の動向、さらには懲罰政策等による検数事業の方向性など、職場環境等の変化に対応すべく労使共通認識が重要となってきます。引き続き、事業基盤、生活基盤の強化に向けた情報の共有化を求めています。

各地域闘争委員会の皆様。

22冬季一時金闘争お疲れ様でした。

今一時金闘争の成果を弾みに、23春闘では『生活防衛』から大幅なベースアップを目指すべく

『生活改善闘争』と位置付けて引

き続き全国団結で頑張ります！